



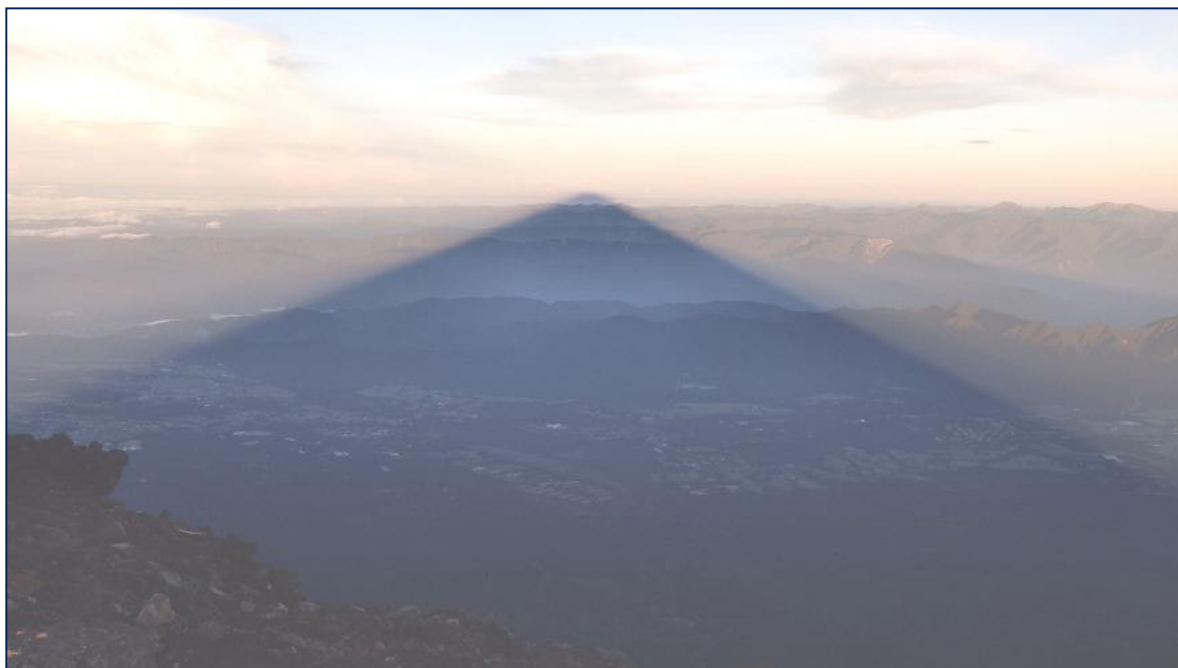
エコアクション21
認証・登録番号0000666

2012 年度版

エコアクション21

環境活動レポート

= 復興と安全 =



2012年12月

影富士（富士山頂より西を望む）

環境と化学のコーディネーター

ソーダニツカ株式会社

本社:東京都中央区 支社:大阪市北区
支店: 札幌 仙台 名古屋 広島 高松 福岡

目 次

ご挨拶	1
環境方針	2
1. 事業の概要	3
2. “復興と安全”について	5
3. 2011 年度の環境活動	5
(1) 環境目標達成状況とその評価	5
－ 化学物質の管理（ケミカルセンター）	11
－ 営業部門の環境貢献活動	14
－ 地域の環境保全活動への参加	16
(2) 環境関連法規等の遵守状況	19
(3) 代表者による全体の評価と見直し	20
4. 2012 年度の環境目標と活動計画	20
5. おわりに	21
6. 当社の環境管理組織	22
編集後記	23

表紙の写真について

「影富士」は朝日や夕日を受けて富士山の姿が、影となり雲や裾野に形作るものです。写真は富士山頂からの早朝撮影です。

（撮影 2012 年 8 月 21 日 河越）

ご挨拶

「環境と化学をコーディネート」する化学品専門商社として、取引先だけではなく、株主様や事業所が設置される地域の皆様からも信頼され、愛される企業に成れるよう、環境保全活動に努めてまいります。



当社の環境活動は、「エコアクション21」の前身である環境省策定の「環境活動評価プログラム」に参加登録した2002年から始まりました。当初は導入に消極的な社員もいましたが、活動が続けていくうちに本来の意義が徐々に理解されるようになり、10年が経過した現在では自主的な取り組みが根付いてきています。事務局がリードしなくても、社員が自ら活動サイクルを回せるレベルまでになりました。

さて、2011年度を振り返りますと、スタートから東日本大震災の影響が色濃く、例年と異なる状況下で当社は環境活動を推進せざるを得ない状態が続きました。当社はこの震災により仙台支店が入居しているビルが被災したため移転を余儀なくされたほか、七ヶ浜と釧路のケミカルセンターが津波の影響を受け、一時営業が出来ない状況に追い込まれました。幸いタンクヤードの被害は軽微でしたが、七ヶ浜ケミカルセンターがある塩釜港はガレキの撤去などで復旧までに約3ヶ月間かかりました。港に隣接した施設としては比較的早く通常稼働に戻りました。

また、特筆すべきこととして、この年度からは新システムがスタートしました。販売管理の基幹システムを核に各種システムをフル導入するスケジュールの中で、旧システムとの並行稼働やシステム確認作業での残業などで、一時的には例年以上の環境負荷がかかりました。一方で夏場の電力消費については、政府から関東・東北地方に「電力使用制限令」が発令され、当社は照明の照度変更や間引きなど、新たに省エネ対策が追加されました。しかし、当社はこのような課題も環境活動の中で上手く取り込み、混乱なく乗り越えることができました。

今後も状況が様々に変化する中であっても、当社は通常的环境活動に加え、営業活動の中からも地球環境に優しいビジネスに努めながら環境活動に取り組んでまいりたいと思います。

2012年12月

代表取締役社長

長洲 崇彦

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業にたずさわっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給策として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』『社会に貢献する』企業でありつづけるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題と位置づける。

環 境 方 針

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

1. 事業活動を通じた地球環境保護への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的且つ継続的に取り組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ケカセンターにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

2. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、新エネルギー等の活用、グリーン購入に取り組めます。

3. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

4. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

5. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境活動レポート』に取りまとめて公表します。

更新履歴

2005年4月1日 制定
2008年4月1日 更新
2011年4月1日 更新
2012年5月2日 更新

2012年5月2日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役社長 長洲 崇彦

1. 事業の概要

企 業 名 ソーダニッカ株式会社 [URL:http://www.sodanikka.co.jp](http://www.sodanikka.co.jp)
本社所在地 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋701
代 表 者 取締役社長 長洲 崇彦
創 立 1947 年 4 月 1 日
資 本 金 37 億 6,250 万円（2012 年 7 月 1 日現在）
 （東京証券取引所 第一部上場）

◆環境管理組織

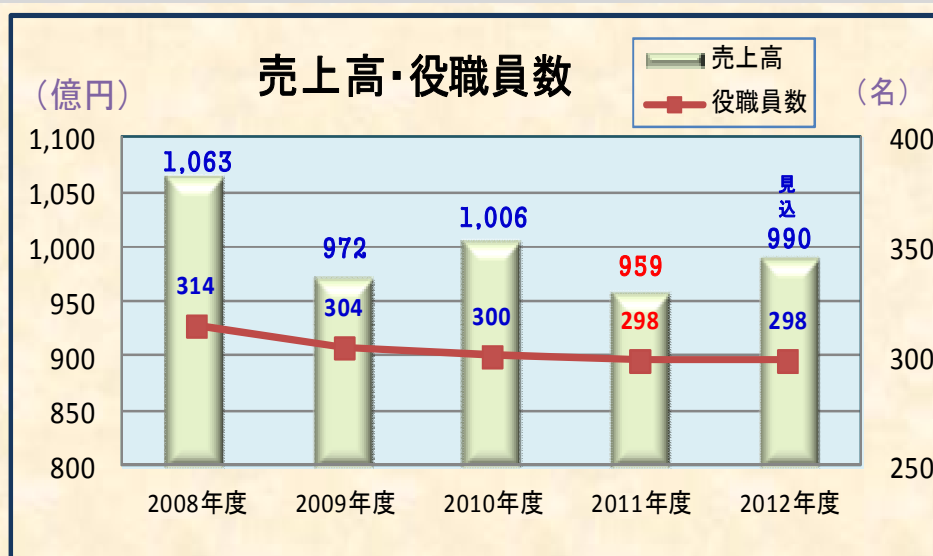
環境責任者 執行役員業務本部長 桃井 一知
担 当 部 署 ソーダニッカ EMS 委員会 事務局
環境担当者 江幡 光隆（事務局・総括担当）
連 絡 先 電話 03-3245-1824 FAX 03-3245-1869
 E-mail: m-ebata@sodanikka.co.jp

事業内容

化学品専門商社として、全国 12 カ所に事業所を配置し、主として化学工業薬品、石油化学製品、合成樹脂原料及び加工製品、電子材料、産業用機器等の仕入・販売を行っています。

また、主力化学品については、取引先への安定供給を目的として国内 4 カ所にケミカルセンターを保有しています。

◆事業規模（売上高と役職員数の推移）（2012 年 3 月 31 日現在）



◆エコアクション21 認証登録の対象範囲

◆事業規模 (2012 年 5 月 14 日現在)

1. オフィス (賃借)

	床面積 (㎡)	役職員数 (人)
本社 (東京)	1,888	172
静岡営業所	4,070	13
大阪支社	446	30
札幌支店	271	11
苫小牧営業所	57	3
仙台支店	182	12
名古屋支店	255	12
広島支店	197	9
高松支店	235	11
三島営業所	166	4
福岡支店	334	15
宇部営業所	129	5

※名古屋支店 2012 年 5 月 14 日事務所移転

全国 12 カ所の事業所

本 社 (東京)
静岡営業所
大 阪 支 社
札 幌 支 店・苫小牧営業所
仙 台 支 店
名 古 屋 支 店
広 島 支 店
高 松 支 店・三島営業所
福 岡 支 店・宇部営業所

ケミカルセンター

釧 路 ケミカルセンター
仙台七ヶ浜 ケミカルセンター
富 士 ケミカルセンター
広島大野 ケミカルセンター
☆各支店に所屬

◆事業規模 (2012 年 4 月 1 日現在)

2. ケミカルセンター (社有)

	事務所 (㎡)	役職員数 (人)	敷地 (㎡)	倉庫 (㎡)
富士ケミカルセンター	204	13	4,070	827
釧路ケミカルセンター	75	6	7,770	—
七ヶ浜ケミカルセンター	84	4	10,040	1,011
大野ケミカルセンター	117	8	2,612	264

2. "復興と安全"について

・復興

2011 年度は、春の**東日本大震災**を無視しては語れない年でした。

- ・ **七ヶ浜ケミカルセンター**は震源地から近く、設備の損傷、地盤沈下などが発生しました。津波の直撃は奇跡的に免れたものの、ガレキで埋まった湾の復興に3ヶ月を要し、その後設備の再稼働を果たしましたが、複数回の補修を必要としました。
- ・ **釧路ケミカルセンター**は2mの津波を受け、設備の電源盤が海水に浸かり電気設備の故障が発生しましたが、2日後には応急処置をして復旧を果たしました。
- ・ **仙台支店**では入居していたビルが震災で被災しました。余震でも天井板の落下が発生し、安全性の面から移転を余儀なくされました。（*2011年5月23日移転）

・物流基地（ケミカルセンター）

当社は**毒劇物^{*1)}**の物流基地を全国4ヵ所に設置しております。

東日本大震災の被災を良い経験として、商品の輸送時や搬入時の事故防止、災害時の速やかな対応を行うべく、定期的な安全会議や防災訓練の実施の強化を行っています。

^{*1)}毒劇物：「毒物及び劇物取締法」規制の毒性や腐食性が強い化学物質

3. 2011年度の環境活動

2011 年度は 2010 年度を基準とする **3 ヶ年計画の初年度**

- ・ **電力**：上半期は**新旧システム**併用で電力使用量が**大幅増加**、下半期は**新システム**のみ稼働で、電力使用量は落ち着きました。
仙台支店は5月の移転により、以前と比べ省エネ対策が進みました。
- ・ **ガソリン**：社有車のハイブリッド車へ切替えが一巡し、使用頻度増加により使用量が**増加**しました。
- ・ **コピー用紙**：4月から**新旧システム**の併用で、データ確認作業への使用により、**大幅増加**、下期は**新システム**単独稼働で、使用量が減少しました。
- ・ **営業課題**：**太陽電池モジュール**の販売件数が増加しました。

(1) 環境目標達成状況とその評価

環境目標

1. 二酸化炭素排出量の削減

全事業所から排出する二酸化炭素は、2011 年度は基準年度（**2010 年度**）比 **1 %**削減とする。

<2011 年度目標> 基準年度（2010 年度）比で事務所毎に目標を定める。

【二酸化炭素】全事業所発生量の **▲1.0%**とする。（※1）

【電力】全事業所使用量の **▲1.0%**とする。

【ガソリン】全事業所使用量の **▲1.0%**とする。

二酸化炭素排出量は**オフィス（事務所）**と**ケミカルセンター（製造）**に分けて管理しています。

（※1）電力 CO₂ 排出係数（単位：kg-CO₂/kWh）は 2007 年の各電力会社の数値を使って計算した結果数字を記載しました。

- ・ 北海道電力 0.517 東北電力 0.473 東京電力 0.425 中部電力 0.470 関西電力 0.366
中国電力 0.677 四国電力 0.392 九州電力 0.387
- ・ 他石油製品の CO₂ 排出係数は「EA21 ガイドライン 2009 年版」の数値を使用

2011 年度 全社二酸化炭素排出量

【目標】 475 t-CO₂ △1.2%（2010 年度比）

【結果】 488 t-CO₂ +4.8%（2010 年度比）（未達）

全社二酸化炭素排出量推移



☆ 全社二酸化炭素排出量 = 事務所 + ケミカルセンター 二酸化炭素排出量の合計

【二酸化炭素】

事務所（割合 61%） 300 t-CO₂ △2.9%（2010 年度比）
ケミカルセンター（割合 39%） 188 t-CO₂ +8.0%（2010 年度比）

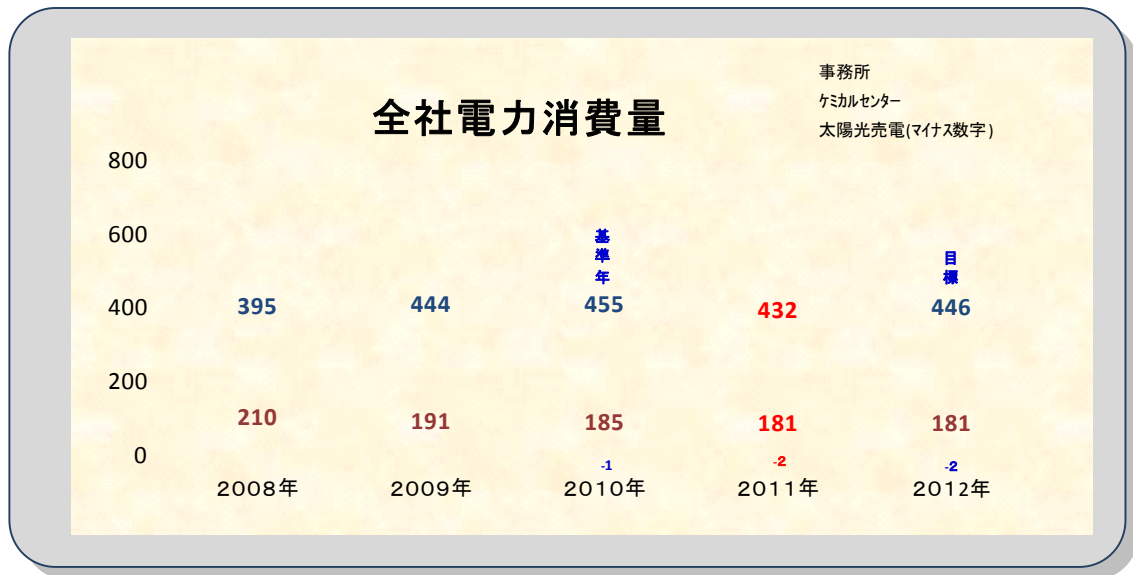
要因：新システム導入 ・ 2011 年度 4 月から導入、新旧システムが稼動、残業等増加した。
「電力使用制限令」による追加省エネ対策で減少しました。

2011 年度 全社電力消費量

【目標】 625MWh △2.3% (2010 年度比)

【結果】 613MWh △4.2% (2010 年度比) (達成)

※基準の変更：仙台支店・空調が含まれた。 計 640MWh(2010 年度)



☆ 全社電力使用量 = 事務所+ケミカルセンター

事務所 (割合 70%) 432 MWh △5.0% (2010 年度比)

ケミカルセンター (割合 30%) 181 MWh △2.4% (2010 年度比)

要因：原子力発電所の稼働停止状態による電力不足で、夏場に政府から「電力使用制限令」発令され、追加省エネ対策を実施し、削減につながりました。

☆ 大野ケミカルセンター 太陽光発電量 (2011 年 4 月～2012 年 3 月末)

累計発電量 5,747 kWh 累計売電量 1,528 kWh

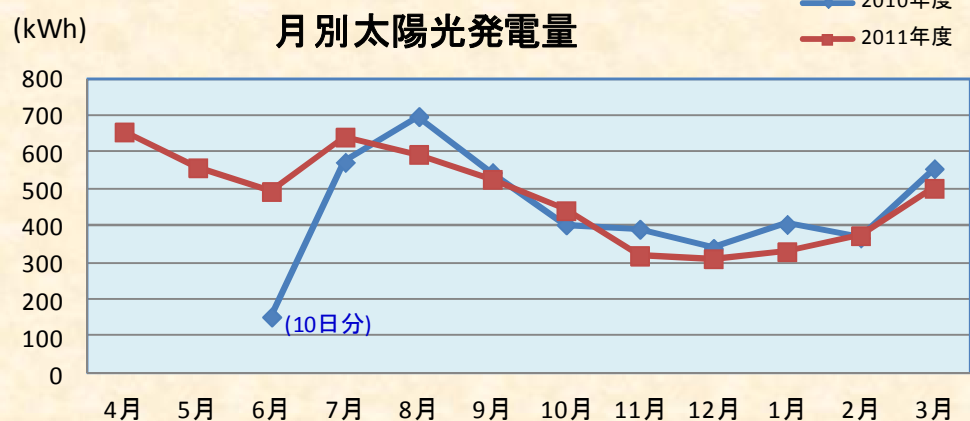
CO₂換算量 3.8 t-CO₂

【設置】 2010 年 5 月末日 【場所】 大野ケミカルセンター (広島県廿日市市)

【能力】 4.59kW 【製品】 ソーラーフロンティア(株)製 CIS 系

【電力会社】 中国電力(株) *CO₂排出係数 0.677t-CO₂/kWh (2007 年度)





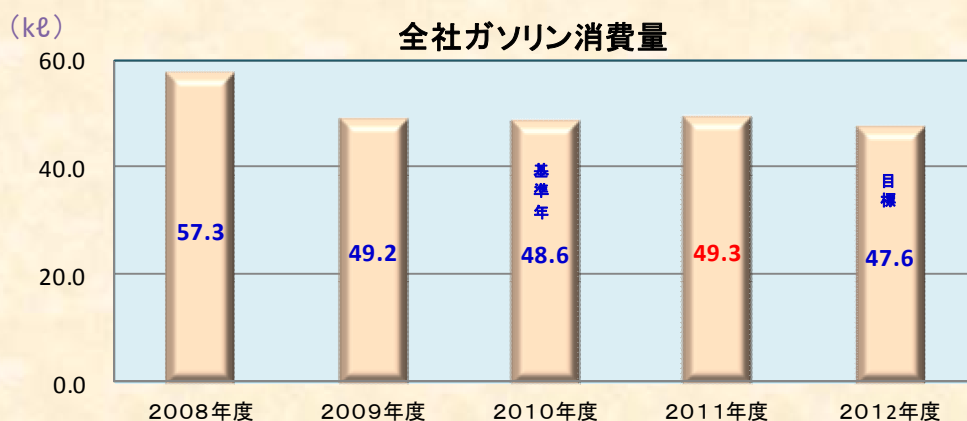
☆ **太陽光発電量**

- ・ 月別発電量 ・ **8月最大** 冬場は夏場の約半分の発電量
- ・ 2010年5月末設置、6月計測開始

2011年度 全社有車ガソリン消費量

【目標】 **48.1** キロリットル △1.0% (2010年度比)

【結果】 **49.4** キロリットル **+1.4%** (2010年度比) (**未達**)



要因：全社有車の**ガソリン消費量**は、全事業所において、ハイブリッド車への切り替えが進んだが、営業上での使用増により**やや増加**となりました。

2. 紙使用量削減と再資源化の取組

(1) 2011年度の紙使用量については2010年度比**1%**削減する。

コピー用紙は、全事業所、全量「環境配慮型製品」とする。

※「環境配慮型製品」とは、当社「グリーン調達ガイドライン」を満たした商品とする。

(2) 排出する紙資源は種類ごとに計量し、リサイクルに供する。

(3) 機密を含む長期保存書類は、100%リサイクルに供する。

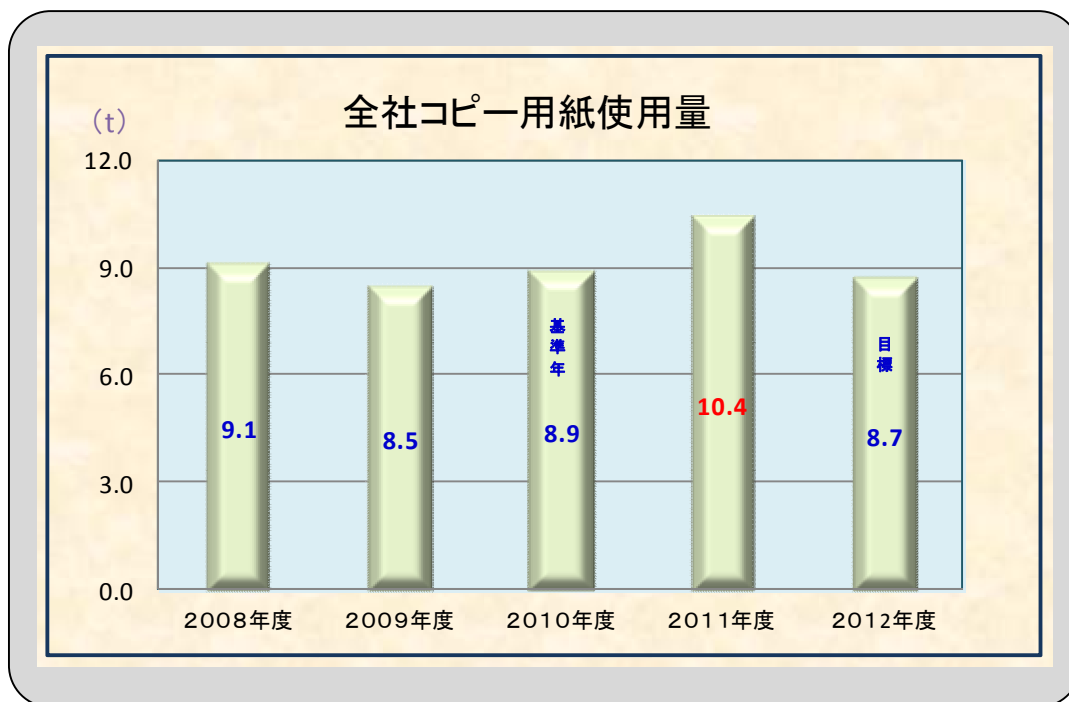
<2011年度目標> 2010年度比で事業所ごとに目標を定める。

【紙使用量】全事業所として2010年度比**1.0%**削減とする。

2011年度 全社コピー用紙使用量

【目標】 **8.8 t** $\Delta 1.0\%$ (2010年度比)

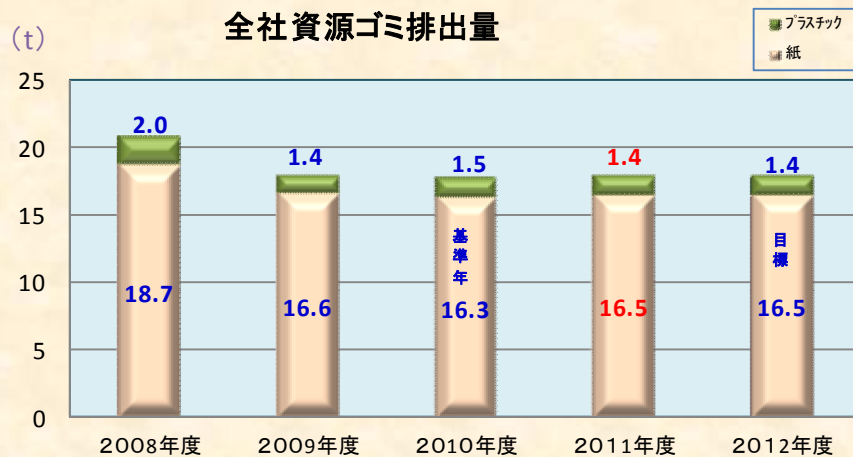
【結果】 **10.4 t** **+16.3%** (2010年度比) (**未達**)



要因：コピー用紙は、2011年4月から新システムが導入されました。上期は新旧システムが併用され、データ確認作業のための新旧帳票類を多量に出力され、大幅に**増加**いたしました。しかし、新システムのみとなった下期は使用量が落ち着きを取り戻しました。

3. 廃棄物削減と分別回収

- (1) 排出する一般ゴミは分別・計量し、再資源化、削減に努める。
- (2) プラスチック類は計量し、再生可能なものはリサイクルに供する。



2011 年度 全社資源ゴミ排出量

【目標】 17.8 t ±0.0% (2010 年度比)
 【結果】 18.0 t +1.1% (2010 年度比) (未達)

【資源ゴミ】

紙資源 (割合 93%) 16.5t +1.4% (2010 年度比)
 プラスチック (割合 7%) 1.4t △1.2% (2010 年度比)

要因：コピー用紙使用増で、紙資源排出量もやや増加しました。

長期保存書類は、全ての事業所でリサイクル処理に出しています。

4. 節水と排水管理

- (1) 賃借オフィス(事務所)においては、ビル管理会社等と協力して節水に取り組む。
- (2) ケミカルセンター、社有オフィスは、製品稀釈用水と生活水を区分管理し、生活水は前年実績以内に使用量を抑える。
- (3) ケミカルセンターは、水質汚濁防止法の特設施設基準（非該当）を自主基準として管理し、排水量を把握する。

【結果】 ケミカルセンター生活水使用量 1,067t 前年比 △9t
 ケミカルセンター排水量 1,349t 前年比 △180t

要因：2011年度の生活水使用量・排水量は、震災後の稼働率の低下により減少となった。

5. グリーン購入

- ・ 印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を使用する。

【結果】グリーン購入はガイドラインに従って管理しております。

コピー用紙その他オフィスで使用する文具は、グリーン調達ガイドラインに則り購入しています。

【全体評価】

オフィス電力：2011年度の消費電力は4月からの新システム導入のデータ確認作業等で残業、休日出勤が増加しました。本社・仙台支店は3月の東日本大震災、福島原子力発電所の事故の影響による、夏場の電力使用制限令で、追加省エネ対策を実施いたしました。

ガソリン消費：ハイブリット車への切替が一巡し、ガソリン削減は減速しました。

コピー用紙消費：新システム導入によるデータ確認の帳票出力が増加しました。新システムが定着すれば、消費量は落ち着くと思われます。

廃棄物と分別：全社で紙ゴミの分別回収と計量を実施しています。プラスチックゴミも分別回収を継続しています。

節水と排水：オフィスの節水はビル管理会社と協力し取り組んでいます。ケミカルセンターでは無駄な洗車や散水を止めています。

グリーン購入：コピー用紙は「グリーン調達ガイドライン」に則り環境配慮型製品を使用しています。

6. 化学物質の管理（ケミカルセンター）

- (1) 化学物質の管理は、社内規程（手順、管理基準等）に従って行う。
- (2) ケミカルセンターでは、防災マニュアル等に従い、環境保全、災害防止に努める。

ケミカルセンターでは、重大事故につながらないように、毎月の**安全会議**、年一回の**防災訓練**を実施し**安全管理**に努めています。また、顧客、メーカーへのきめ細かい対応を含め日常業務を行なっています。

全社では、年に一度、全ケミカルセンター管理者が一堂に会して、**物流管理者会議**を行い安全面での情報共有化、再確認を実施しています。

☆☆☆ ケミカルセンターの化学物質 ☆☆☆

ケミカルセンターで扱う主な**薬品**を紹介いたします。

一般家庭では馴染みがありませんが、産業界ではごく普通の使用薬品です。

劇物：**(毒物劇物取締法・致死性/刺激性大)**なので取扱いには十分な注意を要する。

＜**カ性ソーダ**＞：水酸化ナトリウムの業界通称、塩の電気分解により製造され、化学製品の原料、製紙原料のパルプ蒸解薬(紙の繊維を蒸してほぐす薬品)、排水処理の中和用等、幅広い用途があります。

＜**塩 酸**＞：塩素と水素との合成物と化学物質製造での副産品とがあります。化学物質合成、中和用と用途は多岐にわたっています。

＜**硫 酸**＞：以前は銅鉱石から副産物として製造されていましたが、今は石油精製で取れた硫黄から製造されています。
以前肥料用途が多かったですが、現在は化学工業原料や中和用とやはり多岐に渡ります。

☆☆☆ ケミカルセンターの防災訓練 ☆☆☆

釧路ケミカルセンター

＜2011 年 9 月 27 日(火)＞ 参加：所長・他 4 名、運送業者 4 名

＜**想 定**＞ **カ性ソーダ・濃硫酸**のローリーへの充填作業中に地震発生

＜**対 処**＞ 地震発生 → 作業中止 → 待機 → 安全確認 → 避難

＜**総 評**＞ 余震多発で慣れによる慢心と油断に注意が必要



七ヶ浜ケミカルセンター

＜2011 年 9 月 22 日 (金) (構内) 支店長・他 4 名、運送業者 4 名

- ＜想 定＞ ロリー車の納入後、ホース格納時に少量漏洩(10cc)
- ＜内 容＞ 漏洩 → 吸着物資で吸収 → 確認 (ウェス・乾燥砂・中和剤等)
- ＜総 評＞ 乾燥砂はどんな薬品でも良い。中和剤は中和点が把握し難い



訓練時集合



砂での吸着

静岡支店

＜2011 年 10 月 26 日 (火)＞ (構内) 高橋副支店長・他 8 名、運送業者 5 名

- ＜想 定＞ 東海沖地震発生、津波発生
- ＜内 容＞ 作業を中止、構内設備を確認後、徒歩で市指定避難場所へ避難
- ＜総 評＞ 事務所内安全確保と避難ルートに問題あり



ローリーハッチ閉止



避難場所へ避難

大野ケミカルセンター

＜2011 年 6 月 7 日 (火)＞ (JX 日鉱日石エネルギー (株) 構内) 海上保安部、各消防署
他 14 社、当社 2 名見学

- ＜想 定＞ 地震発生、ローリー・石油タンク火災発生、二次災害で重油が海上へ流出
- ＜内 容＞ 消火活動、負傷者救護、オイルフェンス展張
- ＜総 評＞ 大地震に対する体制が出来上がった

<2011 年 9 月 9 日(金)> 支店長・他 8 名、運送業者社長・他 11 名

<想 定> 安芸灘震源の地震が発生、配管破損、薬品漏洩発生

<内 容> 連絡体制の再確認、緊急避難、破損箇所の確認

<総 評> 実際の地震では余裕を持ってない。人命第一で行動する



避難



吸収剤準備

☆☆☆ 営業部門の活動を紹介します ☆☆☆

7. 営業部門の環境貢献活動

化学分野における 3R 推進、環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努め、その取組については環境活動レポートで公表する。

また、PRTR 法該当化学物質については年間販売量の把握に努める。

当社は 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を推進しております。今回は**コンボライフ**と**遮熱フィルム**の紹介いたします。

また、PRTR 法該当化学物質について説明いたします。

ーコンボライフー

1. コンボライフ「樹脂製折りたたみ式1000L コンテナ」 メーカー:コーンズテクノロジー(株)

① 用途 「液体輸送用」「緊急給水用」

<特徴> ①折りたたみ、積み重ねた状態で収納が可能であり場所を取らない。

②使用後の空コンテナは、積み重ねた状態で集荷が可能である。

③食品原料等の輸送にも使用可能である。

<欠点> ①液体輸送には、内袋が必要である。

②使用後の内袋はリサイクルには適さず産業廃棄物での処分となります。

【連絡先】 環境営業部：03-3245-1814



架台に設置



折りたたみ後の形状

＜災害時の給水用＞コンボライフ＋架台

- ・避難所の空スペースにコンボライフを収納

【災害時】

- ・各避難所に給水用コンボライフを設置
- ・給水車が各避難所のコンボライフに給水
- ・給水車が給水時も、避難民に提供可能

※各市町村実績多数



給水テスト

ー高透明遮熱フィルムー

1. 高透明遮熱フィルム「X-3」(赤外線反射フィルム)メーカー:旭硝子(株)電子カンパニー

① 用途 「窓ガラス遮熱用」

- ＜特徴＞
- ①高断熱、高透明
 - ②可視光線を74%透過、赤外線85%カット、紫外線99%カット
 - ③赤外線を反射し、蓄熱しにくいいためガラスの割れが発生しにくい。

＜欠点＞ 内張り専用、外張り用には使用できません。

- ＜サポート＞
- ・熱割れ計算、推定を致します。
 - ・省エネシュミレーションをいたします。

【連絡先】 第五営業部 : 03-3245-1841

大阪支社・機能材料部 : 06-6446-5728

施 工 実 績



－PRTR法該当化学物質について－

「PRTR 法該当物質年間販売量について」

- ※ 2011 年度の PRTR 法該当化学物質の**排出実績はありません**でした。
- ※ 2011 年度の PRTR 法該当化学物質の**販売量**を把握しました。
 - ・ PRTR 法：「**特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律**」（平成 11 年法律第 86 号）
 - ・ 該当化学物質：PRTR 法該当物質（第一種 462 物質、第二種 100 物質）
 - * 「エアアクション 21 ガイドライン 2009 年版」による。

【結果】

- ・ 第一種指定化学物質：74 物質が該当（462 物質中）昨年より **6** 物質減
- ・ 第二種指定化学物質：1 物質が該当（100 物質中）昨年より **1** 物質減
- ・ **販売量**：公表しておりません。

－事業所ごとの環境保全活動紹介－

8. 地域の環境保全活動への参加

事業所ごとに、地域環境活動に参加、協力や支援を行う。

- ・2011 年度は多数の事業所で環境保全活動を実施しましたが、震災の影響で清掃イベントなどが一部、中止や延期となりました。

本社：「まちかどクリーンデー」
毎月 10 日



本社：「ゴミゼロクリーンデー」
2011 年 5 月 29 日



大阪：「大阪マラソン(クリーン UP)作戦」2011
2011 年 10 月 24 日



札幌：「セーフティ&クリーン大作戦」
2011 年 6 月 3 日



釧路：「海の日記念海岸清掃」
2011 年 7 月 13 日



仙台：「広瀬川 1 万人プロジェクト」
2011 年 9 月 24 日



静岡：「自主的清掃活動」
2011年12月12日



名古屋：「なごや西の森づくり 植樹祭」
2011年10月30日



広島：「ゴミゼロ・クリーンウォーク」他
2011年6月5日



大野：「海の日大野漁港海岸清掃」
2011年7月16日



高松：「中央通り一斉清掃」4回
2011年6月2日～



福岡：「自主的清掃活動」
2011年11月28日



宇部：「花いっぱい運動」
(秋の国体会場用)
2011年5月28日～



— 他 の 活 動 —

全社：「環境社会検定試験」の推奨

第1回～第9回 「環境社会検定試験*1」（通称：ECO検定）

＜エコピープル（eco検定合格者）＞

- ・合格者累計（35名）（2012年3月31日現在）
- 第3回以降、環境教育の一環として受験を推奨し、受験料を会社が負担している。
- ・毎年合格者が順調に増加中

*1 東京商工会議所 主催 第1回目 2006年10月15日
2回目以降は年2回実施（7月と12月の日曜）



(2) 環境関連法規等の遵守状況(最近3カ年)

「環境関連法規」については、毎年4月に「ecoBRAIN*2」で法律の改訂内容を確認し「法令遵守状況チェックリスト」を更新し、各部店は6月に遵守状況を確認しました。

【違反等】 違反行為、行政等からの指導、苦情及び訴訟は全くありませんでした。

【当社に該当する環境法令集】

法 令	目 的
＜ケミカルセンター関係＞	
[大気汚染防止法]	ばい煙の発生
[水質汚濁防止法]	有害物質の排出、浸透防止、漏洩事故時の報告
[廃棄物処理法]	廃棄物の処理
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保、化学物質の取扱い
[消防法]	建物、危険物の保管管理
[毒物劇物取締法]	毒物劇物の製造・保管管理、安全輸送
[海洋汚染防止法]	船受入時汚染防止、有害物質貯蔵設備の管理
＜営業関係＞	
[毒物劇物取締法]	毒物劇物の輸送・販売
[高圧ガス保安法]	高圧ガスの輸送・販売
[消防法]	危険物の輸送
[化管法]（PRTR法）	MSDS(商品安全情報表)の配付
[化審法]	新規物質の販売

＜輸入関係＞

[毒物劇物取締法]

毒物劇物輸送時の安全・標記

[化審法]

一般化学物質の輸入数量の把握・報告

＜総務関係＞

[労働安全衛生法]

役職員の健康と安全確保

[健康増進法]

事務所内分煙

＜全社関係＞

[省エネルギー法]

エネルギー使用の効率化（当社非該当）

【2011 年度登録簿への追加】

[労働安全衛生法・震災土壌除染放射線障害規則]

除染従事者の被曝防止（除染の請負作業）

【2011 年度登録簿から削除】

新たに削除した項目はありません。

*2：「ecoBRAIN」第一法規(株)の「ネット環境法令管理システム」

(3) 代表者による全体の評価と見直し

『環境方針』については、資源・エネルギーを効率的利用の項目に「新エネルギー等の活用」の文言を追加し、活動実態に則した方針とする。

『実施体制』については、組織変更並びに人事異動に伴い環境活動の実行並びに結果と評価の見直しがやり易い体制を構築する。

『環境経営マニュアル』については、事業所規模と管理項目一覧表「別表 1」の新事業所の規模（床面積）を見直しする。

4. 2012年度の環境目標と活動計画

《環境目標》

1. ＜二酸化炭素排出量削減＞

- ・2012 年度の全事業所の排出量を 2 %削減（2010 年度比）
- ・中期目標（3 カ年）は 2013 年度迄に 3 %削減（2010 年度比）
- ・長期目標（10 カ年）は 2020 年度迄に 10 %削減（2010 年度比）

2. ＜紙使用量と再資源化＞

- ・2012 年度の全事業所の使用量を 2 %削減（2010 年度比）

3. ＜廃棄物削減と分別回収＞

- ・紙資源は種類ごとに計量しリサイクル原料にします。
- ・長期保存書類は、100%リサイクル原料にします。
- ・プラスチック類は計量し、可能なものはリサイクルに供します。

4. ＜節水と排水管理＞

- ・賃借ビルでは、ビル管理会社と協力し節水に努めます。
- ・ケミカルセンターでは製品用と生活水を分けて把握管理をします。
- ・ケミカルセンター、静岡支店は、排水量を把握し、排水基準を遵守します。
- ・生活水と排水の使用量、排出量は原則前年を超えないとします。

5. ＜グリーン購入＞

- ・印刷物、封筒等は環境配慮型製品を使用します。

6. ＜化学物質の管理＞

- ・化学物質の取扱いは安全管理、環境保全に努めます。

7. ＜営業部門の環境貢献活動＞

- ・3R（削減・再使用・再原料）の推進及び新エネルギー等の活用を積極的に提案します。
- ・環境配慮の製品・技術の開発・普及に努めます。
- ・取組み内容を環境活動レポートにて公表します。
- ・PRTR 法該当化学物質の年間販売量を把握します。

8. ＜地域の環境保全＞

- ・事業所ごとにボランティア活動などに参加・協力・支援をし、地域社会との共生を推進します。

《マニュアルの変更点》

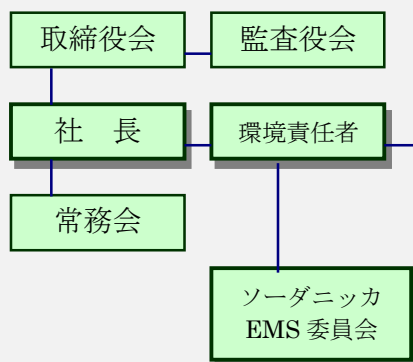
- ・人事異動に伴い、代表者、環境責任者及び事務局員、部門長、環境担当者エコーダー、環境委員が変更。
- ・組織変更に伴い、東京環境委員会の部門を8部門→9部門（業務部門 → 業務部門、新事業部門に分割）
- ・名古屋支店入居ビル立替えのため移転（5月14日）

5. おわりに

弊社の2011年度の環境活動は、良くも悪くも震災・原発事故の影響に終始いたしました。夏の「電力使用制限令」による追加省エネ対策は、環境活動にとっては追い風となったものの、実施に後味の悪さを感じました。その後、制限令解除後も追加省エネ対策を解除せず継続させています。

ソーダニツカ㈱ 環境管理組織

(2012年度)(2012年7月1日付)



東京環境委員会



内部環境監査制度

所定の研修を受講し、試験に合格した者の中から社長に任命された監査員が担当する。

内部環境監査要領により各部門（支社、支店を含む17部門）ごとに年1回以上実施する。

監査員は、社長、環境責任者の直轄となっている。

東京環境委員会は、本社9部門の集合体とし、各部門の目標及び本社全体の目標達成に向けて連携していく。

大阪支社（大阪環境委員会）

総務部・化学品部・機能材料部

札幌支店（札幌環境委員会）

札幌支店・苫小牧営業所・釧路ケミカルセンター

仙台支店（仙台環境委員会）

仙台支店・七ヶ浜ケミカルセンター

静岡部門（静岡環境委員会）

静岡営業所・富士ケミカルセンター

名古屋支店（名古屋環境委員会）

名古屋支店

広島支店（広島環境委員会）

広島支店・大野ケミカルセンター

高松支店（高松環境委員会）

高松支店・三島営業所

福岡支店（福岡環境委員会）

福岡支店・宇部営業所

編集後記

まず、今年の「環境活動レポート」の発行が大幅に遅れてしまったことを、お詫び申し上げます。

個人的に 2011 年度を振り返ると、日本においては震災と原発事故に尽きると思います。世界を見た場合は毎年行われている国連の地球温暖化対策会議（気候変動枠組条約）の行方が気に成ったところです。先進国と発展途上国との意見対立が延々と続き、将来を見据えた場合には地球温暖化防止対策は無理なのではないかと思えるように成りました。

先進国が CO₂ 排出量を抑えても、発展途上国が経済発展によって排出量を増加させ、今では中国やインドは世界 1 位と 3 位の多排出国になりました。将来中国・インドが排出抑制をするように成っても、経済発展を望む多くの国々が、排出量を増大させるであろうことは、火を見るより明らかです。したがって世界の総排出量は減るどころか、今後も増加に向かっていくのではないかと危惧しています。

経済発展と温暖化防止とのせめぎあい、各国の対立が深まれば戦争につながりかねません。一日でも早い温暖化防止の世界合意を望むところです。

M.E. (事務局)

環境活動レポート (2012 年度版)

発行 2012 年 12 月 1 日

ソーダニッカ株式会社 EMS 委員会

〒103-8322 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント

電話 : 03-3245-1824 fax 03-3245-1869

URL : <http://www.sodanikka.co.jp>

E-mail : m-ebata@sodanikka.co.jp

人に、自然に、やさしい環境を
化学のチカラによって
明るい未来を創造します。

人に美しい自然を子供たちに
残すため、私たちは
人と環境との調和を
化学の多様性を駆使し、
チャレンジしてまいります。



ソーダニッカ株式会社

東京都中央区日本橋 3-6-2 TEL03-3245-1824

<http://www.sodanikka.co.jp>

この環境活動レポートは、再生紙を使用しています。